

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年2月6日

【四半期会計期間】 第55期第3四半期(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

【会社名】 光世証券株式会社

【英訳名】 The Kosei Securities Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 巽 大介

【本店の所在の場所】 大阪市中央区北浜二丁目1番10号

【電話番号】 06(6209)0820(代表)

【事務連絡者氏名】 財務担当部長 藤本 伸一

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区北浜二丁目1番10号

【電話番号】 06(6209)0820(代表)

【事務連絡者氏名】 財務担当部長 藤本 伸一

【縦覧に供する場所】 当社東京支店
(東京都中央区日本橋兜町9番9号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第54期 第3四半期 累計期間	第55期 第3四半期 累計期間	第54期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
営業収益 (うち受入手数料) (百万円)	1,748 (351)	881 (213)	1,609 (427)
純営業収益 (百万円)	1,745	878	1,605
経常利益 (百万円)	1,244	150	873
四半期(当期)純利益 (百万円)	736	402	578
持分法を適用した 場合の投資利益 (百万円)			
資本金 (百万円)	12,000	12,000	12,000
発行済株式総数 (千株)	94,864	94,864	94,864
純資産額 (百万円)	18,460	17,691	18,322
総資産額 (百万円)	23,808	21,521	21,649
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	7.82	4.27	6.15
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	7.82	4.27	6.15
1株当たり配当額 (円)			5.00
自己資本比率 (%)	77.5	82.2	84.6
自己資本規制比率 (%)	1,593.1	1,368.4	1,526.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,885	712	548
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	214	319	240
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	471	466	472
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	7,521	5,297	6,157

回次	第54期 第3四半期 会計期間	第55期 第3四半期 会計期間
会計期間	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	3.15	0.89

- (注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成していないため、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 営業収益には、消費税等は含まれておりません。
- 3 持分法の適用の対象となる関連会社はありません。
- 4 上記の比率は以下のように算出しております。
- ・ 自己資本 = 純資産合計 - 新株予約権
 - ・ 自己資本比率 = $\frac{\text{期末自己資本合計}}{\text{期末資産の部合計}} \times 100$

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社の事業内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

当第3四半期累計期間の業績等の概要は次のとおりであります。

(1) 業績の概要

受入手数料

期別	種類	株券 (百万円)	債券 (百万円)	受益証券 (百万円)	外国為替 証拠金取引 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)
第55期第3四半期 (自平成26年4月 至平成26年12月)	委託手数料	187	2	6	0		196
	引受け・売出し・特定 投資家向け売付け勧誘 等の手数料						
	募集・売出し・特定投 資家向け売付け勧誘等 の取扱手数料	0	2	5			8
	その他の受入手数料	4	0	3		0	8
	計	192	5	15	0	0	213

委託手数料

当第3四半期累計期間の株式委託売買高は184億73百万円、株数で41百万株となり、株券委託手数料は1億87百万円となりました。

募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料、その他の受入手数料

当第3四半期累計期間の募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料は8百万円、その他の受入手数料は8百万円となりました。

トレーディング損益

区分	第55期第3四半期 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)		
	実現損益 (百万円)	評価損益 (百万円)	計 (百万円)
株券等トレーディング損益	268	242	511
債券等・その他の トレーディング損益	2	8	6
(債券等トレーディング損益)	(1)	(9)	(7)
(その他のトレーディング損益)	(0)	(0)	(1)
計	266	251	518

当第3四半期累計期間のトレーディング損益は、5億18百万円の利益となりました。このうち株券等トレーディング損益については5億11百万円の利益、債券等・その他のトレーディング損益については6百万円の利益となりました。

金融収支

当第3四半期累計期間の金融収益は84百万円となりました。また、金融費用は3百万円となり、金融収支は81百万円となりました。

販売費・一般管理費

当第3四半期累計期間の販売費・一般管理費は7億11百万円となりました。

(2) トレーディング業務の概要

区分	第54期 (平成26年3月31日)	第55期第3四半期 (平成26年12月31日)
	(百万円)	(百万円)
資産		
商品有価証券等	3,605	4,223
株券等トレーディング商品	2,942	3,575
債券等トレーディング商品	662	647
その他トレーディング商品		
デリバティブ取引	20	66
オプション取引	0	3
先物取引	20	62
外国為替証拠金取引		
計	3,626	4,289
負債		
商品有価証券等	64	335
株券等トレーディング商品	64	335
債券等トレーディング商品		
その他トレーディング商品		
デリバティブ取引	36	21
オプション取引	0	1
先物取引	36	18
外国為替証拠金取引		0
計	101	356

(3) 自己資本規制比率

区分		第54期 (平成26年3月31日)	第55期第3四半期 (平成26年12月31日)
		(百万円)	(百万円)
基本的項目 (A)		17,003	17,407
補完的項目	金融商品取引責任準備金	3	4
	一般貸倒引当金		
	評価差額金等	848	283
計 (B)		852	288
控除資産 (C)		6,909	6,008
固定化されていない自己資本の額 (A) + (B) - (C) (D)		10,945	11,687
リスク相当額	市場リスク相当額	450	614
	取引先リスク相当額	42	32
	基礎的リスク相当額	223	206
計 (E)		716	854
自己資本規制比率(D) / (E) × 100 (%)		1,526.9	1,368.4

(注) 上記は、決算数値をもとに算出したものであります。

2 【有価証券の売買等業務の状況】

(1) 有価証券の売買の状況(先物取引を除く)

当第3四半期累計期間および前事業年度における有価証券の売買の状況(先物を除く)は、次のとおりであります。

株券

期別	受託(百万円)	自己(百万円)	合計(百万円)
第54期 (自平成25年4月 至平成26年3月)	44,233	74,973	119,206
第55期第3四半期 (自平成26年4月 至平成26年12月)	18,473	40,667	59,141

債券

期別	受託(百万円)	自己(百万円)	合計(百万円)
第54期 (自平成25年4月 至平成26年3月)	255	45	301
第55期第3四半期 (自平成26年4月 至平成26年12月)	320	167	487

受益証券

期別	受託(百万円)	自己(百万円)	合計(百万円)
第54期 (自 平成25年4月 至 平成26年3月)	3,119	98,286	101,406
第55期第3四半期 (自 平成26年4月 至 平成26年12月)	1,699	87,280	88,980

(2) 証券先物取引等の状況

当第3四半期累計期間および前事業年度における証券先物取引等の状況は、次のとおりであります。

株式に係る取引

期別	先物取引(百万円)		オプション取引(百万円)		合計(百万円)
	受託	自己	受託	自己	
第54期 (自 平成25年4月 至 平成26年3月)	555,944	5,633,037	16,035	291,108	6,496,126
第55期第3四半期 (自 平成26年4月 至 平成26年12月)	283,052	3,912,470	17,934	466,907	4,680,365

債券に係る取引

期別	先物取引(百万円)		オプション取引(百万円)		合計(百万円)
	受託	自己	受託	自己	
第54期 (自 平成25年4月 至 平成26年3月)	134,156	1,756,931	36,166	289	1,927,543
第55期第3四半期 (自 平成26年4月 至 平成26年12月)	85,392	677,460	20,024	288	783,165

3 【有価証券の引受け及び売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況】

当第3四半期累計期間および前事業年度における有価証券の引受け及び売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の状況は、次のとおりであります。

(1) 株券

(単位：千株、百万円)

期別		引受高		売出高		特定投資家 向け売付け 勧誘等の 総額		募集の 取扱高		売出しの 取扱高		私募の 取扱高		特定投資家 向け売付け 勧誘等の 取扱高	
		株数	金額	株数	金額	株数	金額	株数	金額	株数	金額	株数	金額	株数	金額
第54期 (自 平成25年4月 至 平成26年3月)	内国 株券							25	21	1	1				
	外国 株券														
第55期第3四半期 (自 平成26年4月 至 平成26年12月)	内国 株券							1	2	1	2				
	外国 株券														

(2) 債券

(単位：百万円)

期別	種類	引受高	売出高	特定投資家 向け売付け 勧誘等の 総額	募集の 取扱高	売出しの 取扱高	私募の 取扱高	特定投資家 向け売付け 勧誘等の 取扱高
第54期 (自 平成25年4月 至 平成26年3月)	国債				126			
	地方債							
	特殊債							
	社債							
	外国債券				12	121	110	
	合計				139	121	110	
第55期第3四半期 (自 平成26年4月 至 平成26年12月)	国債				0			
	地方債							
	特殊債							
	社債							
	外国債券					141		
	合計				0	141		

(3) 受益証券

(単位：百万円)

期別	種類		引受高	売出高	特定投資家 向け売付け 勧誘等の 総額	募集の 取扱高	売出しの 取扱高	私募の 取扱高	特定投資家 向け売付け 勧誘等の 取扱高
第54期 (自 平成25年4月 至 平成26年3月)	株式 投信	単位型							
		追加型				318			
	公社債 投信	単位型				594			
		追加型							
	外国投信							300	
	合計					912		300	
第55期第3四半期 (自 平成26年4月 至 平成26年12月)	株式 投信	単位型							
		追加型				288			
	公社債 投信	単位型				226			
		追加型							
	外国投信							270	
	合計					515		270	

4 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たに発生したリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

5 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

6 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期までの国内株式市場は、4月から10月にかけて軟調な相場が続いた後、日銀の追加金融緩和や為替市場が円安方向へ推移したことなどから株価が大きく上昇する展開となりました。

このような市場の動きであったことから、株式等の売買は委託・自己ともに、11月と12月こそ活況相場を背景にやや好調となりましたが、10月までの低迷を十分にカバーするには至らず、当期の営業成績は前年を下回るものとなりました。

対顧客営業面では、顧客ニーズを掘り下げるコンサルティング業務を進め、NISA口座の開設推進、投信や外債等の販売などに注力したものの、受入手数料収入は減少し、2億13百万円（前年同期比60.8%）となりました。また、当社の主要な収益部門であるトレーディング収益も非常に厳しい結果となり、5億18百万円（同39.8%）となりました。

一方、金融収益は、84百万円（同108.9%）となり、販売費・一般管理費は、7億11百万円（同97.9%）となりました。

以上により、当第3四半期の営業収益は8億81百万円（同50.4%）、営業利益は1億66百万円（同16.4%）、経常利益は1億50百万円（同12.1%）、四半期純利益は4億2百万円（同54.6%）となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末の総資産合計は、前事業年度末に比べ1億27百万円減少し215億21百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ7億77百万円増加し154億75百万円となりました。その主な要因は、約定見返勘定が増加したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ9億4百万円減少し60億46百万円となりました。その主な要因は、投資有価証券の評価差額洗替え等により減少したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ5億3百万円増加し38億29百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ8億8百万円増加し33億83百万円となりました。その主な要因は、受入保証金の増加によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ3億6百万円減少し4億41百万円となりました。その主な要因は、繰延税金負債の減少によるものであります。

当第3四半期会計期間末の純資産の残高は、前事業年度末に比べ6億30百万円減少し176億91百万円となりました。その主な要因は、その他有価証券評価差額金の洗替えによるものであります。

この結果、自己資本比率は82.2%（前期末84.6%）となりました。また、当四半期末発行済株式総数にもとづく1株当たり純資産額は188円6銭（前期末194円79銭）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ8億60百万円減少し、52億97百万円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期累計期間の営業活動により資金は、7億12百万円減少（前第3四半期累計期間は18億85百万円の増加）しました。これは、約定見返勘定の増加による支出が10億97百万円、預り金及び受入保証金の増加による収入が6億36百万円、短期差入保証金の増加による支出が2億42百万円あったこと等の結果であります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期累計期間の投資活動により資金は、3億19百万円増加（前第3四半期累計期間は2億14百万円の減少）しました。これは、投資有価証券の売却による収入が3億96百万円、投資有価証券の取得による支出が1億7百万円、投資事業有限責任組合からの分配による収入が30百万円あったこと等の結果であります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期累計期間の財務活動により資金は、4億66百万円減少（前第3四半期累計期間は4億71百万円の減少）しました。これは、配当金の支払による支出が4億68百万円、ストックオプションの行使による収入が2百万円あったこと等の結果であります。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年2月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	94,864,000	94,864,000	東京証券取引所 (市場第一部)	(注)
計	94,864,000	94,864,000		

(注) 1 発行済株式はすべて、株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式であります。
2 単元株式数は1,000株であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年12月31日		94,864		12,000		3,000

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日（平成26年9月30日）にもとづく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 789,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 93,670,000	93,670	
単元未満株式	普通株式 405,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	94,864,000		
総株主の議決権		93,670	

- (注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」欄の普通株式は、全て当社保有の自己株式であります。
2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権1個)含まれております。
3 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式198株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 光世証券株式会社	大阪市中央区北浜二丁目1 番10号	789,000		789,000	0.83
計		789,000		789,000	0.83

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。)ならびに同規則第54条および第73条の規定にもとづき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)および「有価証券関連業経理の統一に関する規則」(平成19年9月18日 日本証券業協会自主規制規則)にもとづいて作成しております。

なお、四半期財務諸表等規則第4条の2第3項により、四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定にもとづき、第3四半期会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)および第3四半期累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金およびキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準および利益剰余金基準による割合を示すと次のとおりであります。

資産基準	0.0%
売上高基準	0.0%
利益基準	0.1%
利益剰余金基準	0.6%

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	6,157	5,297
預託金	2,545	2,446
トレーディング商品	3,626	4,289
商品有価証券等	3,605	4,223
デリバティブ取引	20	66
約定見返勘定	-	1,002
信用取引資産	2,073	1,914
信用取引貸付金	1,976	1,450
信用取引借証券担保金	97	463
有価証券担保貸付金	151	52
借入有価証券担保金	151	52
立替金	0	2
顧客への立替金	0	0
短期貸付金	1	1
前払金	0	0
前払費用	9	23
未収入金	0	0
未収還付法人税等	-	78
未収収益	24	18
短期差入保証金	107	349
流動資産計	14,698	15,475
固定資産		
有形固定資産	4,517	4,465
建物	1,658	1,612
器具備品	29	23
土地	2,829	2,829
無形固定資産	21	14
ソフトウェア	18	11
電話加入権	0	0
その他	2	2
投資その他の資産	2,411	1,565
投資有価証券	1,986	1,143
関係会社株式	7	7
長期立替金	90	89
その他	568	565
貸倒引当金	241	240
固定資産計	6,950	6,046
資産合計	21,649	21,521

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
トレーディング商品	101	356
商品有価証券等	64	335
デリバティブ取引	36	21
約定見返勘定	94	-
信用取引負債	174	237
信用取引借入金	139	153
信用取引貸証券受入金	35	83
受取差金勘定	0	20
預り金	1,269	1,560
顧客からの預り金	1,251	1,485
その他の預り金	18	75
受入保証金	769	1,114
前受収益	0	-
未払金	14	15
未払費用	37	71
未払法人税等	98	-
賞与引当金	15	7
流動負債計	2,575	3,383
固定負債		
繰延税金負債	470	157
退職給付引当金	57	54
役員退職慰労引当金	215	225
その他の固定負債	4	4
固定負債計	747	441
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	3	4
特別法上の準備金計	3	4
負債合計	3,326	3,829
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,000	12,000
資本剰余金		
資本準備金	3,000	3,000
その他資本剰余金	1,114	1,115
資本剰余金合計	4,114	4,115
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金	600	600
繰越利益剰余金	855	786
利益剰余金合計	1,455	1,386
自己株式	96	94
株主資本合計	17,473	17,407
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	847	283
評価・換算差額等合計	847	283
新株予約権	0	-
純資産合計	18,322	17,691
負債・純資産合計	21,649	21,521

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業収益		
受入手数料	351	213
委託手数料	337	196
引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料	0	-
募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	5	8
その他の受入手数料	7	8
トレーディング損益	*1 1,301	*1 518
金融収益	*2 77	*2 84
その他の営業収益	19	64
営業収益計	1,748	881
金融費用	*3 3	*3 3
純営業収益	1,745	878
販売費・一般管理費		
取引関係費	*4 90	*4 74
人件費	*5 359	*5 347
不動産関係費	*6 103	*6 93
事務費	12	12
減価償却費	68	60
租税公課	70	74
その他	20	46
販売費・一般管理費計	726	711
営業利益	1,019	166
営業外収益	*7 225	*7 9
営業外費用	*7 0	*7 25
経常利益	1,244	150
特別利益		
固定資産売却益	3	-
投資有価証券売却益	-	382
特別利益計	3	382
特別損失		
固定資産除却損	1	-
金融商品取引責任準備金繰入れ	1	0
特別損失計	2	0
税引前四半期純利益	1,245	532
法人税、住民税及び事業税	509	130
四半期純利益	736	402

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	1,245	532
減価償却費	68	60
貸倒引当金の増減額（は減少）	0	0
投資有価証券売却及び評価損益（は益）	-	382
投資事業組合運用損益（は益）	186	25
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	14	10
金融商品取引責任準備金の増減額（は減少）	1	0
固定資産売却損益（は益）	3	-
固定資産除却損	1	-
受取利息及び受取配当金	32	7
預託金の増減額（は増加）	1,081	99
預り金及び受入保証金の増減額（は減少）	2,144	636
約定見返勘定の増減額（は増加）	388	1,097
トレーディング商品（資産）の増減額（は増加）	692	663
トレーディング商品（負債）の増減額（は減少）	1,043	254
信用取引資産の増減額（は増加）	1,533	159
信用取引負債の増減額（は減少）	429	62
短期差入保証金の増減額（は増加）	2	242
有価証券担保貸付金の増減額（は増加）	43	98
その他	72	29
小計	2,510	422
利息及び配当金の受取額	32	7
法人税等の支払額	656	298
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,885	712
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	16	1
有形固定資産の売却による収入	3	-
投資有価証券の取得による支出	643	107
投資有価証券の売却による収入	-	396
投資事業有限責任組合からの分配による収入	442	30
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	214	319
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	2	0
ストックオプションの行使による収入	-	2
配当金の支払額	469	468
財務活動によるキャッシュ・フロー	471	466
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,199	860
現金及び現金同等物の期首残高	6,322	6,157
現金及び現金同等物の四半期末残高	*1 7,521	*1 5,297

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

退職給付に関する会計基準等の適用

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を変更いたしました。

これによる、損益への影響はありません。

(四半期損益計算書関係)

1 トレーディング損益の内訳

前第3四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

	実現損益 (百万円)	評価損益 (百万円)	計 (百万円)
株券等			
トレーディング損益	298	994	1,293
債券等・その他の			
トレーディング損益	1	9	7
うち債券等			
トレーディング損益	(1)	(9)	(7)
うちその他の			
トレーディング損益	()	()	()
計	297	1,003	1,301

当第3四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

	実現損益 (百万円)	評価損益 (百万円)	計 (百万円)
株券等			
トレーディング損益	268	242	511
債券等・その他の			
トレーディング損益	2	8	6
うち債券等			
トレーディング損益	(1)	(9)	(7)
うちその他の			
トレーディング損益	(0)	(0)	(1)
計	266	251	518

2 金融収益の内訳

	前第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
信用取引収益	23百万円	33百万円
受取配当金	43百万円	41百万円
受取債券利子	7百万円	6百万円
その他	2百万円	3百万円
計	77百万円	84百万円

3 金融費用の内訳

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
信用取引費用	3百万円	2百万円
その他	0百万円	0百万円
計	3百万円	3百万円

4 取引関係費の内訳

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
支払手数料	15百万円	14百万円
取引所・協会費	45百万円	35百万円
通信・運送費	20百万円	16百万円
旅費・交通費	3百万円	4百万円
広告宣伝費	2百万円	1百万円
交際費	2百万円	1百万円
計	90百万円	74百万円

5 人件費の内訳

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
役員報酬・従業員給与	294百万円	281百万円
その他の報酬・給料	13百万円	13百万円
福利厚生費	31百万円	32百万円
賞与引当金繰入れ	2百万円	7百万円
退職給付費用	7百万円	2百万円
役員退職慰労引当金繰入れ	10百万円	10百万円
計	359百万円	347百万円

6 不動産関係費の内訳

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
不動産費	16百万円	14百万円
器具備品費	86百万円	79百万円
計	103百万円	93百万円

7 営業外収益および費用の内訳

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
(営業外収益)		
投資事業組合運用益	186百万円	百万円
受取配当金(その他有価証券)	26百万円	2百万円
その他	12百万円	6百万円
計	225百万円	9百万円

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
(営業外費用)		
投資事業組合運用損	百万円	25百万円
その他	0百万円	0百万円
計	0百万円	25百万円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
現金・預金	7,521百万円	5,297百万円
現金及び現金同等物	7,521百万円	5,297百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	470	利益剰余金	5.0	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(2) 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

2 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	470	利益剰余金	5.0	平成26年3月31日	平成26年6月30日

(2) 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

2 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

当社の事業である金融商品取引業ならびにこれらの附属業務は「投資・金融サービス業」という単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

当社の事業である金融商品取引業ならびにこれらの附属業務は「投資・金融サービス業」という単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

四半期財務諸表等規則第8条の2の規定にもとづき、注記を省略しております。

(有価証券およびデリバティブ関係)

1 トレーディングに係るもの

(1) トレーディングの状況に関する事項

当社におけるトレーディングの概要

当社は、有価証券市場における公正な価格形成および円滑な流通を目的として、トレーディング業務を行っております。当社のトレーディングポジションは、顧客のさまざまなニーズに対応するために行っている取引から発生するものおよび裁定取引やポジションのヘッジ取引等のディーリング業務から発生しております。

取扱商品は、株式・債券等の商品有価証券、株価指数先物・債券先物・金利先物およびこれらのオプション取引に代表される取引所取引の金融派生商品、先物外国為替取引・選択権付債券売買・通貨オプション等の取引所取引以外の金融派生商品(店頭デリバティブ)の3種類であります。

トレーディングにおけるリスクの概要

トレーディングにおけるリスクのうち、主要なものはマーケットリスクと取引先リスクがあげられます。

マーケットリスクは、株式・金利・為替等の市場価格が変動することによって発生するリスクであり、取引先リスクは、取引相手先が契約を履行できなくなる場合に発生するリスクであります。

当社のリスク管理体制

証券業務は、市況の変化に影響を受けやすく、加えて取扱商品の多様化、とりわけデリバティブの取扱により直面するリスクも複雑化しております。従いまして、トレーディングにおけるリスク管理は極めて重要であると認識しております。

マーケットリスク管理方法では、各商品毎のポジション限度額およびロスカットルールを設定し、その遵守状況を監視しております。これらの市場リスクに係るリスク量はトレーディンググループから独立した管理グループにおいて日々、ポジションの評価・損益・リスク額を管理し、経営者が把握できるようにしております。一方、取引先リスクにつきましても、取引先の信用状況の評価をもとに取引限度額を設定し、日々の管理体制として担保評価および各取引の評価損益の把握等、適切な管理を行っております。また、その遵守状況については適宜、経営者に報告しております。デリバティブの場合の取引限度額は当該取引を再構築するためのコスト(再構築コスト)に加え将来の当該コストの予想上昇分を加えた与信相当額をベースに設定しております。また、与信リスクを軽減するためにネットティング契約の締結、担保の徴求を必要に応じ行っております。

(2) 商品有価証券等(売買目的有価証券)

前事業年度の損益に含まれた評価差額

株式 726百万円

債券 7百万円

当第3四半期累計期間の損益に含まれた評価差額

株式 196百万円

債券 9百万円

(3) デリバティブ取引の契約額および時価

前事業年度末(平成26年3月31日)

ヘッジ会計が適用されないもの

種類	契約額等 (百万円)		時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
		うち1年超		
オプション取引				
(売建)	0		0	0
(買建)	14		0	0
外国為替証拠金取引				
先物・先渡し取引				
(売建)	2,164		33	33
(買建)	482		16	16
スワップ取引				

(注) 1 先物取引についてはみなし決済損益を時価欄に記載しております。

2 時価の算定方法は、以下のとおりであります。

株券オプション取引.....金融商品取引所が定める証拠金算定基準値段

株価指数オプション取引.....金融商品取引所が定める証拠金算定基準値段

債券オプション取引.....金融商品取引所が定める証拠金算定基準値段

外国為替証拠金取引.....金融商品取引所が定める証拠金算定基準値段

債券先物取引.....金融商品取引所が定める清算指数

株価指数先物取引.....金融商品取引所が定める清算指数

通貨先物取引.....金融商品取引所が定める清算価格またはこれに準ずる価格

選択権付債券売買取引.....原則として原証券の時価、ボラティリティー、金利を基準として業者間気配を参考にし算出した価格

外国市場デリバティブ取引...金融商品取引所が定める証拠金算定基準値段

ヘッジ会計が適用されるもの

該当事項はありません。

当第3四半期会計期間末（平成26年12月31日）

ヘッジ会計が適用されないもの

種類	契約額等 (百万円)	うち1年超	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
オプション取引				
（売建）	1		0	0
（買建）	24		2	2
外国為替証拠金取引	29		0	0
先物・先渡し取引				
（売建）	2,069		15	15
（買建）	676		28	28
スワップ取引				

(注) 1 先物取引についてはみなし決済損益を時価欄に記載しております。

2 時価の算定方法は、以下のとおりであります。

株券オプション取引.....金融商品取引所が定める証拠金算定基準値段

株価指数オプション取引.....金融商品取引所が定める証拠金算定基準値段

債券オプション取引.....金融商品取引所が定める証拠金算定基準値段

外国為替証拠金取引.....取引金融機関から提示された価格

債券先物取引.....金融商品取引所が定める清算指数

株価指数先物取引.....金融商品取引所が定める清算指数

通貨先物取引.....金融商品取引所が定める清算価格またはこれに準ずる価格

選択権付債券売買取引.....原則として原証券の時価、ボラティリティ、金利を基準として業者間気配を参考にし算出した価格

外国市場デリバティブ取引...金融商品取引所が定める証拠金算定基準値段

ヘッジ会計が適用されるもの

該当事項はありません。

2 トレーディングに係るもの以外

(1) 満期保有目的の債券

前事業年度末（平成26年3月31日）

該当事項はありません。

当第3四半期会計期間末（平成26年12月31日）

該当事項はありません。

(2) 子会社株式および関連会社株式

前事業年度末（平成26年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 子会社株式7百万円）は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難であると認められることから、記載しておりません。

当第3四半期会計期間末（平成26年12月31日）

子会社株式（四半期貸借対照表計上額 子会社株式7百万円）は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難であると認められることから、記載しておりません。

(3) その他有価証券

前事業年度末(平成26年3月31日)

区分	種類	取得原価 (百万円)	貸借対照表計 上額(百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表価額が取得価格を超えるもの	株式	50	76	25
	その他			
	小計	50	76	25
貸借対照表価額が取得価格を超えないもの	株式			
	その他	300	297	2
	小計	300	297	2
合計		350	373	23

(注) 非上場株式および投資事業有限責任組合等への出資(貸借対照表計上額16億12百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難であると認められることから、上表のその他有価証券には含めておりません。

当第3四半期会計期間末(平成26年12月31日)

区分	種類	取得原価 (百万円)	四半期貸借対照 表計上額 (百万円)	差額 (百万円)
四半期貸借対照表価額が取得価格を超えるもの	株式	50	82	32
	その他	300	311	11
	小計	350	393	43
四半期貸借対照表価額が取得価格を超えないもの	株式			
	その他			
	小計			
合計		350	393	43

(注) 非上場株式及び投資事業有限責任組合等への出資(四半期貸借対照表計上額7億50百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難であると認められることから、上表のその他有価証券には含めておりません。

(4) デリバティブ取引の契約額および時価

該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額(円)	7.82	4.27
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	736	402
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	736	402
普通株式の期中平均株式数(千株)	94,067	94,070
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額(円)	7.82	4.27
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)	11	1
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式について前事業年度末から重要な変動がある場合の概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 2月 6日

光世証券株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 土 居 正 明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松 井 理 晃 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている光世証券株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第55期事業年度の第3四半期会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、光世証券株式会社の平成26年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。